

J B - 1 3 , 1 4 , 1 7 ~ 2 0 型

製品記号 : J B 1 3 - N , J B 1 4 - N

J B 1 7 - N , J B 1 8 - N

J B 1 9 - N , J B 2 0 - N

※ J B - 1 3 , 1 4 型の A L L S U S 製の場合、
製品記号は J B 1 3 - K , J B 1 4 - K となります。

ベローズ形伸縮管継手

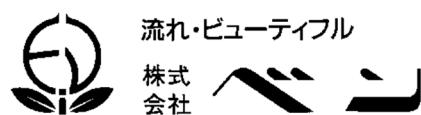
取扱説明書



[单式]



[複式]



はじめに

この取扱説明書は、JB-13, 14, 17~20型ベローズ形伸縮管継手の取扱方法について記述しています。本製品をご使用の前に熟読の上、正しくお使いください。

この取扱説明書は本製品を設置、および使用される方々のお手元に確実に届くようお取りはからい願います。

製品の危険性についての本文中の用語



警告 : 取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



注意 : 取扱を誤った場合、使用者が軽い、若しくは中程度の傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害・損壊の発生が想定される場合。

ご使用にあたっての警告・注意事項

本製品のご使用にあたり、人身の安全および製品を正しく使用するために必ずお守りください。



警告

●製品の使用条件が製品仕様を外れた過酷な条件下での使用の場合、製品の取付け状態が不備な場合、また弊社以外での製品の改造などを行なった場合などでは、製品の損傷・破損や流体の外部への流出(吹出し)などに伴う事故を引き起こす恐れがあります。

※このような事故の場合、弊社としては責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

●本製品は、重量物ですので、配管取付けなどの際には製品本体を確実に支えるなど注意を払ってください。

※製品を落しますと、怪我をする恐れがあります。

●万一、ベローズ部からの外部漏洩が発生しても危険のないよう、取付の周囲には充分注意を払ってください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我をする恐れがあります。また、高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。

●本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。

※流体が吹出した場合、怪我をしたり、高温流体の場合、やけどをする恐れがあります。

●製品にはむやみに触れないようにしてください。

※高温流体の場合、やけどの恐れがあります。

●万一、ベローズ部より外部漏洩が発生した場合には、直ちに流体の供給弁を止めてください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我をする恐れがあります。また、高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。(製品の交換が必要になります。)



注意

●製品を使用する際には充分な強度のアンカ(固定)が必要です。

※アンカを設けない、あるいは強度不足の場合、耐圧試験時や運転時にベローズが伸びきり、製品あるいは配管系統が破損する恐れがあります。

●製品が正しく配管の伸縮を吸収するためには、配管の座屈防止や質量を支えるよう、配管のガイド、自重支持が必要です。

●面間固定用のナット及びザガネは、製品を配管後、アンカ(固定)及びガイドを設置してから取り外してください。

(JB-13型、14型の呼び径300・350および19型、20型については、ナットを所定の位置に移動してください。)

※ナットを外さないと面間が固定され、製品が伸縮できません。

アンカ(固定)及びガイドの設置については、5~8頁を参照してください。

●製品の機能の維持、および万一の外部漏洩に備え、定期的に点検を実施してください。



警告

下記に該当する場合、製品の故障・損傷・破損や流体の外部への流出（吹出し）などによる物的損害・人的損害や怪我や蒸気の場合、やけどをする恐れがありますので取扱説明書を熟読の上、適切にご使用ください。

- 不當な取扱い、または使用による場合。
- 弊社の責任とみなされない故障の場合。
- 弊社以外での改造、または修理による場合。
- 設計仕様条件を超えた過酷な環境下における取扱い、保管、あるいは使用の場合。
- 火災、水害、地震、落雷、その他天災地変による場合。
- 消耗のはなはだしい部品などで、あらかじめその旨申し出を行っている場合。

納入品の故障により誘発される物的損害・人的損害は補償の対象外となります。

目次	頁
1. 製品用途、仕様、構造	1
(1) 用途	1
(2) 仕様	1
(3) 構造	2
2. 伸縮管継手の選定	3
3. 設置要領	4
(1) 製品質量	4
(2) 配管例略図	5
(3) アンカ（固定）の設置	5
(4) ガイドの設置	7
4. 運転および保守要領	9
○サービスネットワーク	

1. 製品用途、仕様、構造

(1) 用途

JB-13, 14, 17~20型ベローズ形伸縮管継手は、冷暖房、空気調和および衛生配管などの温度変化によって生ずる、管の軸方向の伸縮吸収に使用される伸縮管継手です。JIS準拠品の他、高圧用など、また構造により単式、複式などの種類があります。

(2) 仕様

★ 型式	JB-13		JB-14	
製品記号	JB13-N ^{注1}		JB14-N ^{注1}	
種類	JIS準拠品			
★呼び径	20~350			
★最高使用圧力	1.0 MPa			
☆適用流体	蒸気・空気・不活性ガス・水・温水・油			
☆最高使用温度	220°C			
☆伸縮量(mm) (伸び:縮み)	10:25		20:50	
端接続	JIS 10K フランジ ^(注)			
材質	フランジ: Q235 (SS400相当)、内筒・ベローズ: SUS316L			
耐圧性能	水圧にて1.5 MPa			
★ 型式	JB-17	JB-18	JB-19	JB-20
製品記号	JB17-N	JB18-N	JB19-N	JB20-N
種類	高圧用		外圧二重シール構造	
★呼び径	20~250		32~300	
★最高使用圧力	2.0 MPa		1.0 MPa	
☆適用流体	蒸気・空気・不活性ガス・水・温水・油		蒸気・空気・不活性ガス・水・温水・油	
☆最高使用温度	250°C		220°C	
☆伸縮量(mm) (伸び:縮み)	10:35	20:70	10:60	20:120
端接続	JIS 20K フランジ ^(注)		JIS 10K FF フランジ	
材質	フランジ: S25C 内筒・ベローズ: SUS316L		フランジ: Q235 (SS400相当) 内筒・ベローズ: SUS316L	
耐圧性能	水圧にてフランジ呼び圧力の1.5倍		水圧にて1.5 MPa	

(注) フランジのガスケット座はRFですが、平面座(座板)の寸法はJIS B 2220と異なります。

注1: JB-13、14型はALL SUS製も製作します。(呼び径20~250まで)

(製品記号: JB13-K, JB14-K) 構造などの詳細は、納入品図面にて確認してください。



注意

- 製品についている銘板表示内容と注文された型式の上記仕様 ★部分を確認してください。
- 上記仕様の ☆部分が使用条件を満足することを確認してください。
- 上記の仕様を超えての使用はできません。

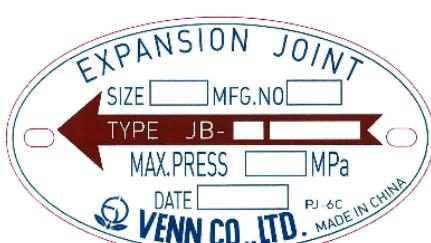
銘板(例)

JB-13・14型 (ネームステッカー)

※ 図はJB-13型の場合

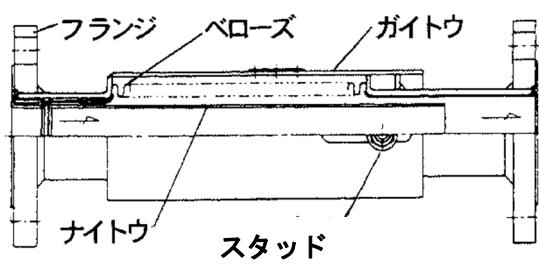


JB-17・18・19・20型 (ネームプレート)

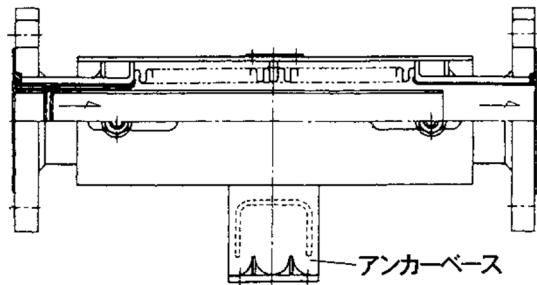


(3) 構造 (呼び径により構造が多少異なります。)

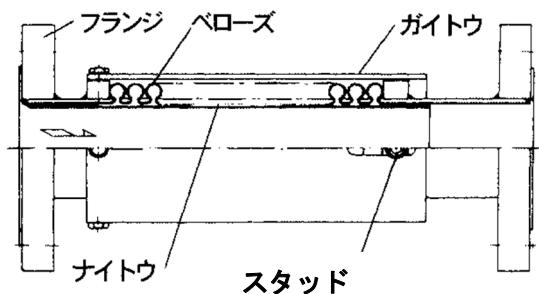
J B - 1 3 型



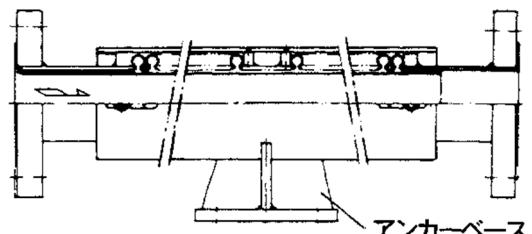
J B - 1 4 型



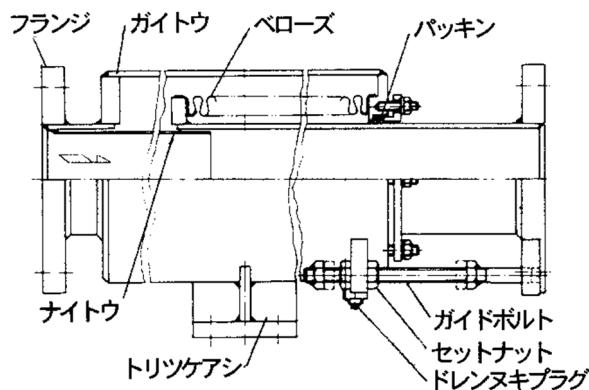
J B - 1 7 型



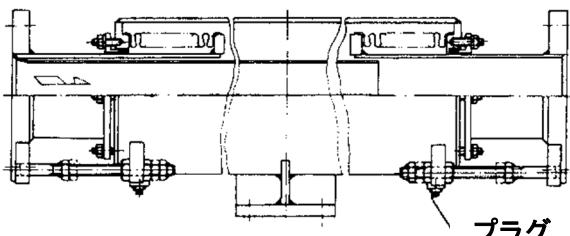
J B - 1 8 型



J B - 1 9 型

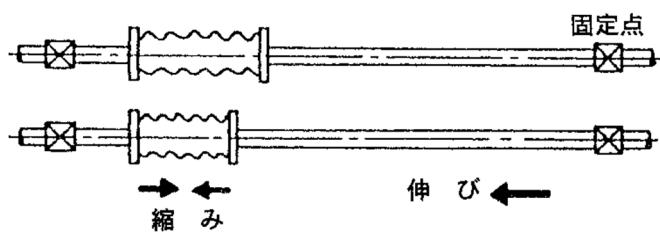


J B - 2 0 型



[配管の伸縮吸収]

温度変化によって生ずる配管の軸方向の伸縮をベローズの伸縮により吸収します。



2. 伸縮管継手の選定

配管の材質、温度変化による伸縮量により、伸縮管継手の型式、本数を決定します。

[選定例]

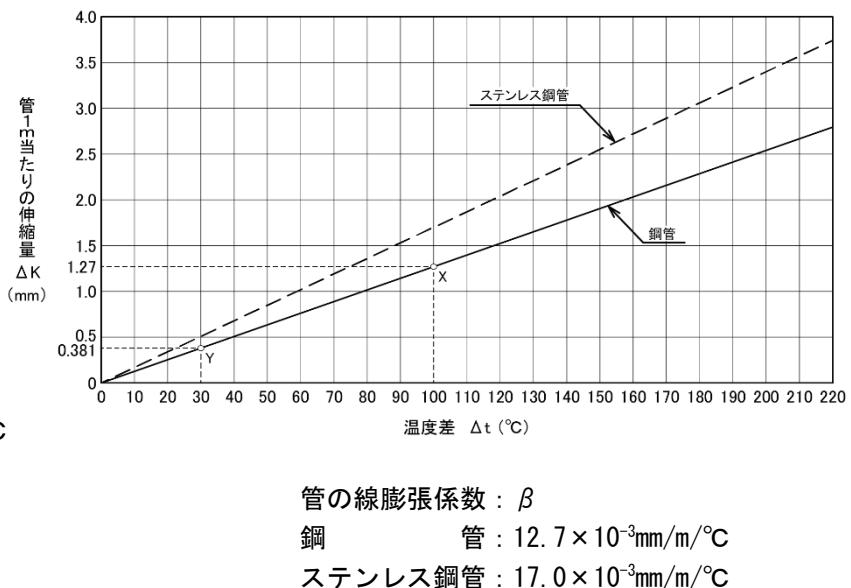
钢管の長さ (ℓ) : 35m
最高使用温度 (T) : 120°C
最低気温 (t_1) : -10°C
取付時の気温 (t_2) : 20°C

$$n = \frac{\Delta \ell}{\delta}$$

$$\Delta \ell = \beta \times \Delta t \times \ell$$

n : 継手本数
 δ : 継手の最大伸縮長さ mm
 $\Delta \ell$: 管の伸縮量 mm
 β : 管の線膨張係数 mm/m/°C
 Δt : 温度差 °C
 ℓ : 管の長さ m

図 管の1m当りの伸縮量



	管の伸び側	管の縮み側
1. 温度差	$\Delta t_1 = T - t_2$ $(\text{伸び側の温度差}) \quad (\text{最高使用温度}) \quad (\text{取付時の気温})$ $= 120 - 20$ $= 100^\circ\text{C}$	$\Delta t_2 = t_2 - t_1$ $(\text{縮み側の温度差}) \quad (\text{取付時の気温}) \quad (\text{最低気温})$ $= 20 - (-10)$ $= 30^\circ\text{C}$
2. 管の伸縮量	<p>図より、Δt_1時の管1mの伸び (Δk_1) を求め、管の伸び ($\Delta \ell_1$) を求める。</p> $\Delta \ell_1 = \Delta k_1 \times \ell$ $= 1.27 \times 35$ $= 44.45 \text{ mm}$	<p>図より、Δt_2時の管1mの縮み (Δk_2) を求め、管の縮み ($\Delta \ell_2$) を求める。</p> $\Delta \ell_2 = \Delta k_2 \times \ell$ $= 0.381 \times 35$ $= 13.34 \text{ mm}$
※計算式で求める場合は、 $\Delta \ell = \beta \times \Delta t \times \ell$ で求めてください。		
3. 継手の種類と本数	<p>JIS準拠品として単式JB-13型、または複式JB-14型を選定する場合。</p> <p>継手の本数 (n)、継手の縮み量 (δ_1) とすると、 単式JB-13型の縮み量は、$\delta_1 = 25 \text{ mm}$</p> $n = \frac{\Delta \ell_1}{\delta_1} = \frac{44.45}{25} = 1.778 \text{ 本}$	<p>継手の本数 (n)、継手の伸び量 (δ_2) とすると、 単式JB-13型の伸び量は、$\delta_2 = 10 \text{ mm}$</p> $n = \frac{\Delta \ell_2}{\delta_2} = \frac{13.34}{10} = 1.334 \text{ 本}$
同様に複式JB-14型の場合、縮み量 $\delta_1 = 50 \text{ mm}$ 、伸び量 $\delta_2 = 20 \text{ mm}$ ですから		
	$n = \frac{\Delta \ell_1}{\delta_1} = \frac{44.45}{50} = 0.889 \text{ 本}$	$n = \frac{\Delta \ell_2}{\delta_2} = \frac{13.34}{20} = 0.667 \text{ 本}$
管の伸び側、縮み側のうち、大きい方の本数を採用しますから、 単式JB-13型の場合2本、複式JB-14型の場合1本の何れかとなります。		

3. 設置要領



警告

- 本製品は、重量物ですので、配管取付などの際には製品本体を確実に支えるなど注意を払ってください。
※製品を落しますと、怪我をする恐れがあります。
- 万一、ベローズ部からの外部漏洩が発生しても危険のないよう、取付の周囲には充分注意を払ってください。
- 流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我をする恐れがあります。また、高温流体の場合はやけどをする恐れがあります。



注意

- 輸送中などに製品への異物混入を避けるため、入口・出口にキャップ、あるいはシール蓋をしてあるものについては、それらを外してから取付けてください。
- 製品を配管に接続する際には、製品の流れ方向を示す矢印と流体の流れ方向を合わせて取付けてください。
※流れ方向を合わせることで流れをスムーズにします。
- ベローズにはねじり応力をかけないでください。
※ベローズの破損の原因となります。
- 面間固定用のナット及びザガネは、製品を配管後、アンカ（固定）及びガイドを設置してから取り外してください。
(JB-13型、14型の呼び径300・350および19型、20型については、ナットを所定の位置に移動してください。)
※ナットを外さないと面間が固定され、製品が伸縮できません。
アンカ（固定）及びガイドの設置については、5~8頁を参照してください。
- JB-19型のアンカーベースを固定する場合は、製品を一次側固定の直近に設置してください。
- 縦配管で伸縮管継手を設置する際は、継手より上側の配管質量が継手にかかるないようにしてください。
※継手で配管の質量は支えられません。
- 凍結の恐れのある場合は、水抜きや保温などをしてください。
※凍結による破損の恐れがあります。

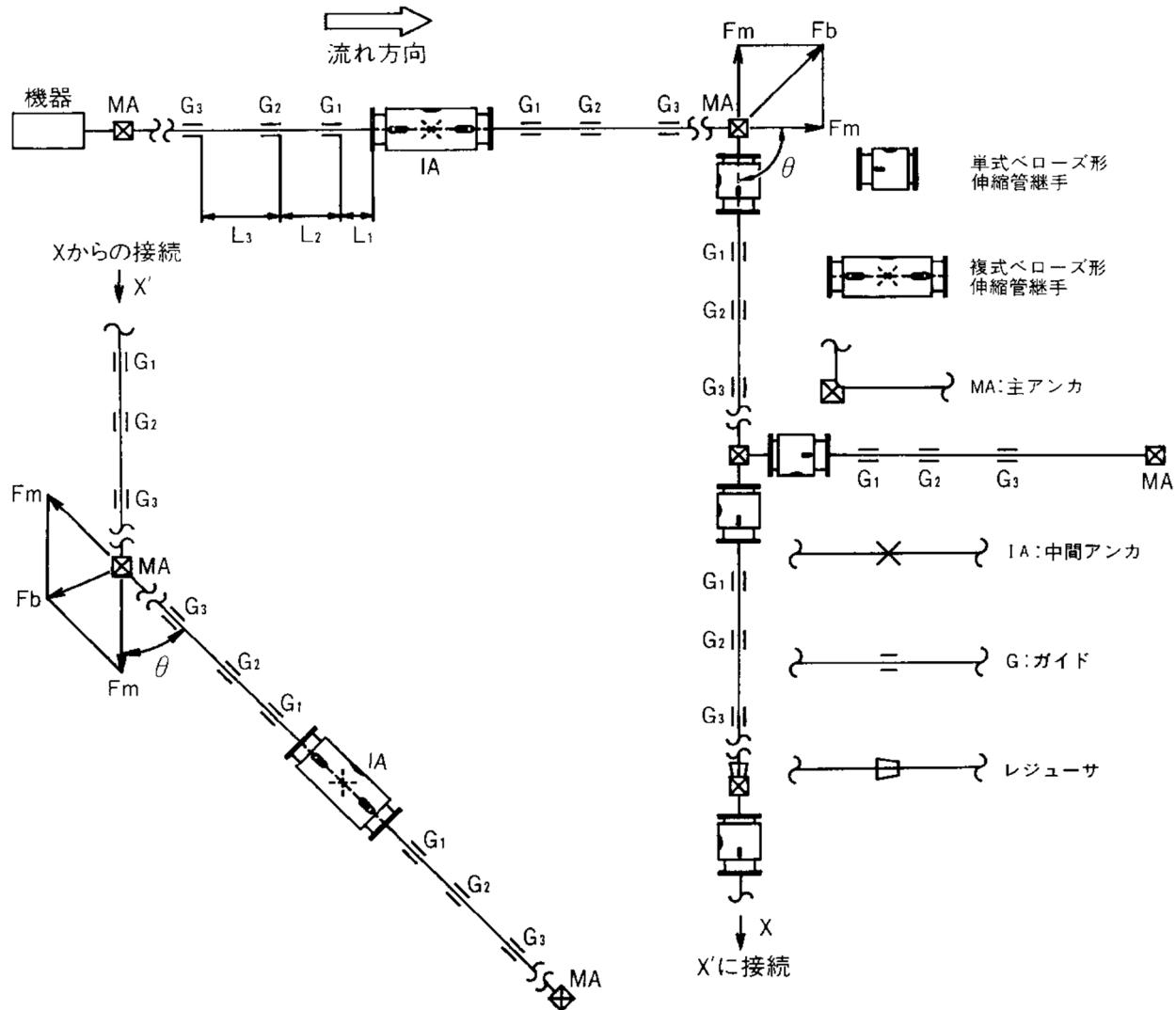
(1) 製品質量

(kg)

呼び径 型式	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	350
JB-13型	4	4	5.5	5.5	7.5	10.5	12	16	22	29	49	59	92	108
JB-14型	6	6	9	9	12	17	20	30	35	62	91	103	202	241
JB-17型	7	8	10	10	12	17	19	24	41	53	63	81	—	—
JB-18型	12	13	17	18	18	26	32	45	67	92	125	173	—	—
JB-19型	—	—	14	16	21	26	31	42	60	89	120	156	186	—
JB-20型	—	—	22	25	31	43	49	65	92	139	181	240	292	—

※JB-13、14型ALL SUS製（呼び径20~250まで）の場合の重量は、納入品図面にてご確認ください。

(2) 配管例略図



注. 伸縮管継手を取付ける場合は、管側の芯合わせを十分に行ない、取付けてください。

(3) アンカ (固定) の設置

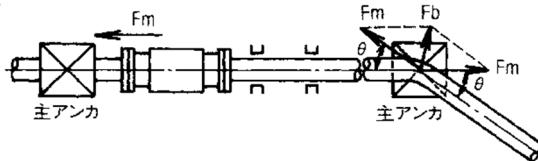


注意

- 製品を使用する際には充分な強度のアンカ (固定) が必要です。
※アンカを設けない、あるいは強度不足の場合、耐圧試験時や運転時にベローズが伸びきり、製品あるいは配管系統が破損する恐れがあります。
- 複式はアンカーベースを必ず固定してください。
※アンカーベースを固定しない場合、正しく配管の伸縮を吸収できません。

伸縮管継手を使用する際にアンカは必要不可欠なものです。伸縮管継手が受持つ区間の両端を確実に固定しなければなりません。尚、伸縮管継手の取付位置は、単式はアンカの近くに取付けますと片側のガイドを省略できます。また、複式は両アンカの中間に取付け、両側均等に伸縮させます。

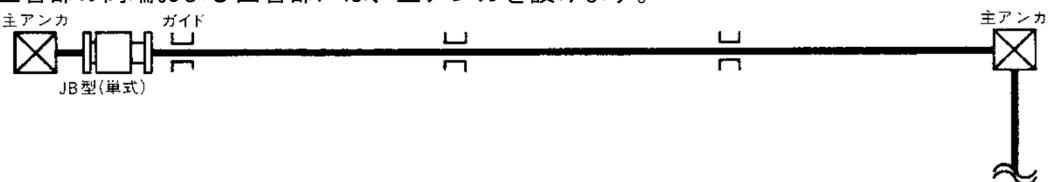
1) アンカに加わる荷重



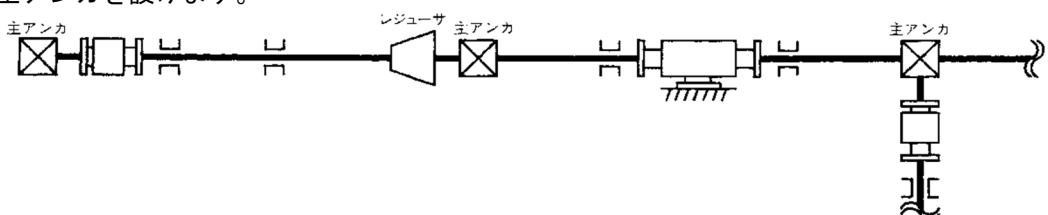
荷重の種類	JB型	記号の説明
1. 直管部主アンカに加わる荷重 (Fm:N)	$Fm = Fp + Fe$ $Fp = Ae \times P$ $Fe = K \times S$	Fp : 内圧による軸方向荷重 Fe : 所定内縮による荷重 Ae : ペローズ有効面積 P : 使用圧力 K : ペローズバネ定数 S : 伸縮量 θ : 配管の曲り角度 Fc : 流体の遠心力による荷重 A : 管の断面積 ρ : 流体密度 V : 流速 g : 重力加速度 ※型式、呼び径毎の Ae , K はカタログ参照ください。
2. 曲管部主アンカに加わる荷重 (Fb:N)	$Fb = 2Fm \sin \frac{\theta}{2} + Fc$ $Fc = \left(\frac{2A\rho V^2}{g} \sin \frac{\theta}{2} \right) \times 98.0665$ (比重の大きい流体および流速の速い流体は、遠心力から生じる荷重 Fc を加算します。)	Mpa N/mm mm N cm^2 g/cm^3 m/s $980cm/s^2$
3. 中間アンカに加わる荷重 (Fi:N)	$Fi = Fe$	

2) アンカの取付位置

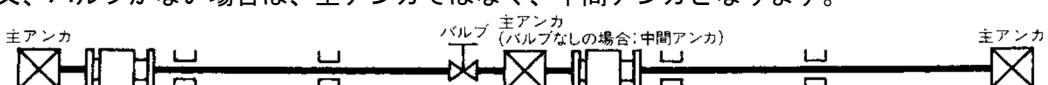
1. 主管部の両端および曲管部には、主アンカを設けます。



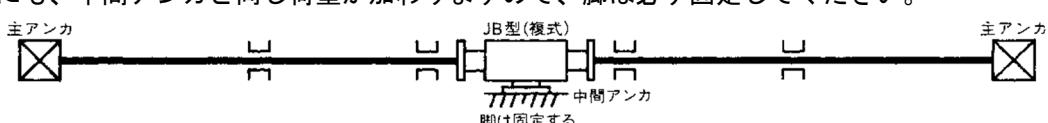
2. レジューサで配管径が異なる二つの伸縮管継手の間には、主アンカを設けます。レジューサで配管径が異なる場合でも一つの伸縮管継手で配管の伸縮を吸収できる場合は主管部の両端および曲管部に主アンカを設けます。また、拘束のない伸縮管継手を含む分岐配管の入口部にも主アンカを設けます。



3. 二つの伸縮管継手の間の配管部にバルブを設ける箇所には主アンカを設けます。又、バルブがない場合は、主アンカではなく、中間アンカとなります。



4. 主アンカおよび中間アンカは、負荷される力を十分に支える強度が必要です。複式伸縮管継手の脚にも、中間アンカと同じ荷重が加わりますので、脚は必ず固定してください。



(4) ガイドの設置

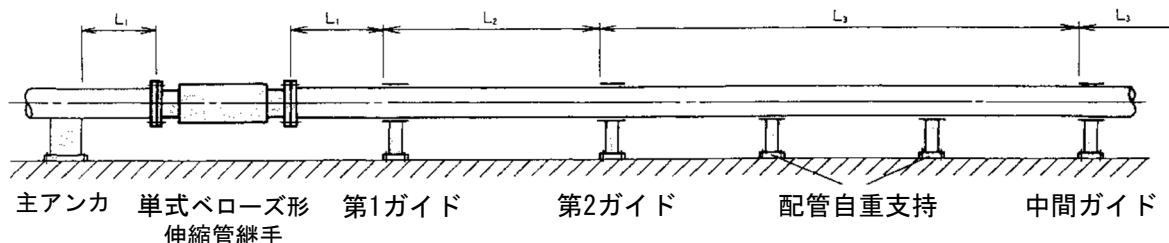


注意

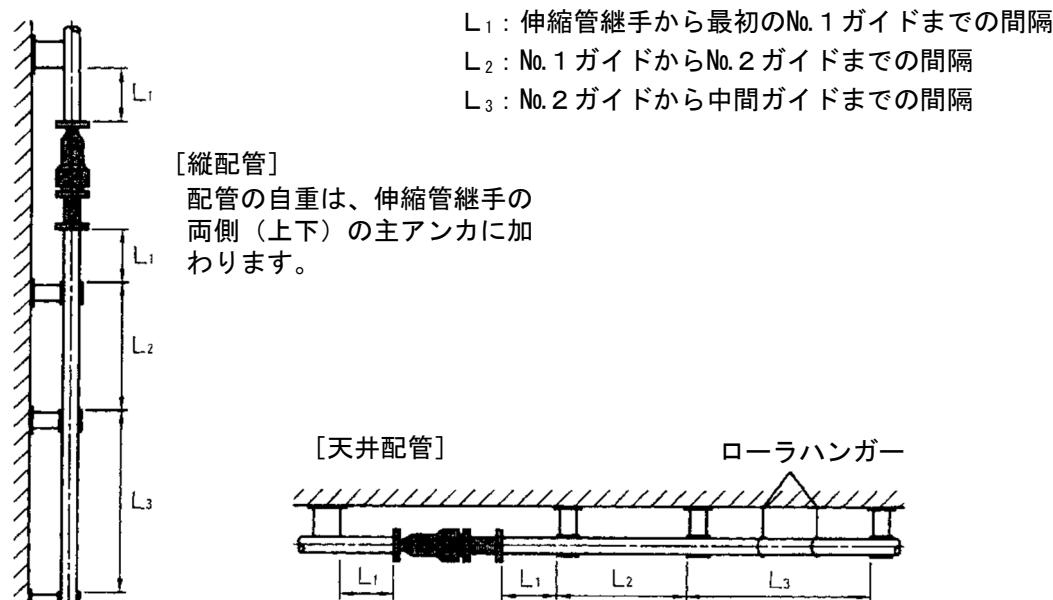
- 製品が正しく配管の伸縮を吸収するためには、配管の座屈防止や質量を支えるよう、配管のガイド、自重支持が必要です。
- 伸縮管継手が正しく配管の伸縮を吸収するためには、継手と接続配管の芯を合わせてください。
配管の芯ずれ：呼び径 125 A 以下は±2mm 以内、呼び径 150 A 以上は±3mm 以内
配管の平行度：±2° 以内

伸縮管継手が正しく伸縮するためには、伸縮管継手と配管との芯合せ、および軸方向の動きに要する力を無理なくアンカに伝えるためにガイドが必要です。それぞれのガイド位置は下記の間隔で設けてください。

図A. ガイドの取付間隔



図B. 縦配管・天井配管の例



①各ガイドの最大取付間隔は次式で求めてください。
また、中間ガイド間隔 L_3 (最大値) は計算で求め
る代わりに、図D、E中間ガイドの最大間隔から求
める事もできます。

$$L_1 \leq 4D$$

$$L_2 \leq 14D$$

$$L_3 \leq 1.57 \sqrt{\frac{EI}{F_m}} \quad I = \frac{\pi}{64} (D^4 - d^4)$$

$L_1 L_2 L_3$: ガイド間隔 (最大値)

D : 管の外径

mm

d : 管の内径

mm

E : 管材料の設計温度に

おける縦弾性係数

N/mm²

鋼管 200°C

$193 \times 10^3 \text{ N/mm}^2$

ステンレス鋼钢管 200°C

$182 \times 10^3 \text{ N/mm}^2$

I : 管の断面二次モーメント

mm⁴

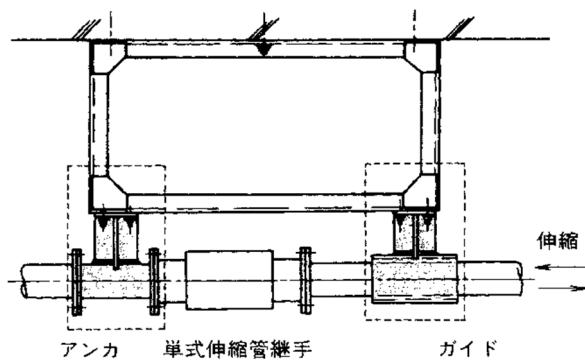
Fm : 主アンカに加わる荷重

N

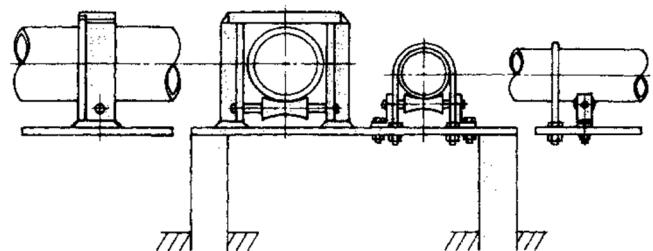
②配管自重支持

配管の自重、流体の質量等によって生ずる管の曲がりを防止するためにローラサポート、またはローラハンガーガイドが必要です。

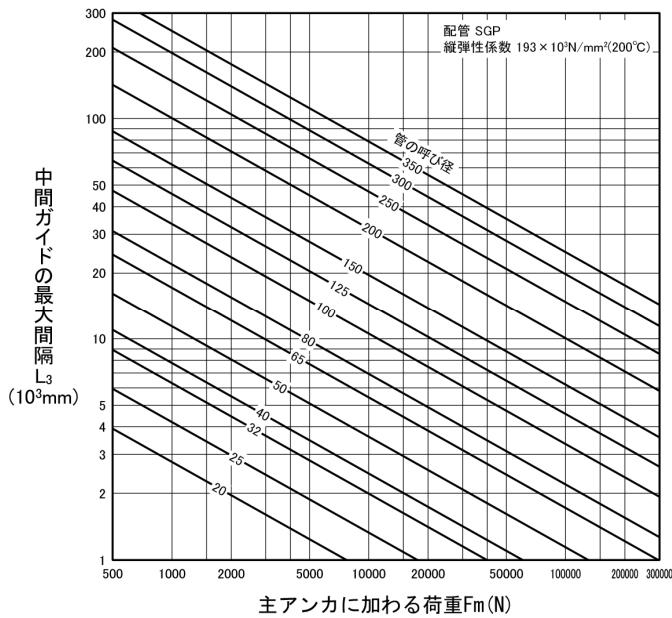
図C. アンカ、ガイド (例)



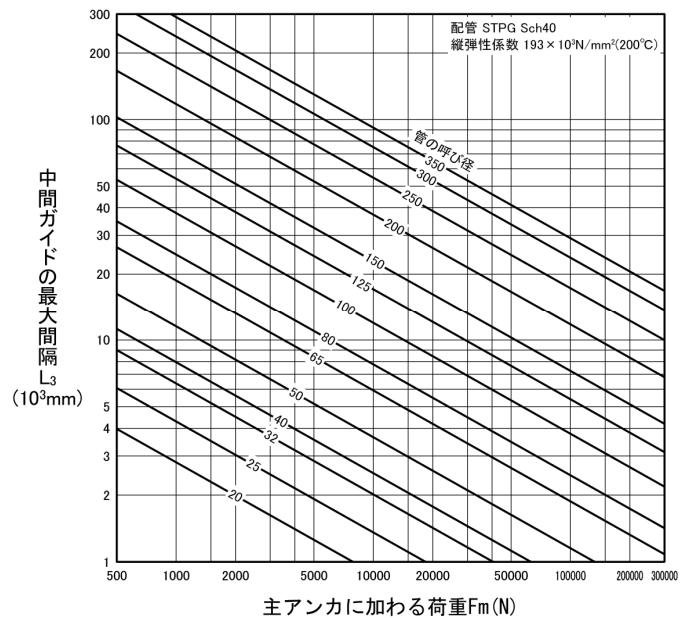
他のガイド (例)



図D. 中間ガイドの最大間隔 配管 SGP



図E. 中間ガイドの最大間隔 配管 STPG Sch40



4. 運転および保守要領



警告

- 本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。
※流体が吹出した場合、怪我をしたり、高温流体の場合、やけどをする恐れがあります。
- 製品にはむやみに触れないようしてください。
※高温流体の場合、やけどの恐れがあります。
- 万一、ベローズ部より外部漏洩が発生した場合には、直ちに流体の供給弁を止めてください。
※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、怪我をする恐れがあります。また、高温流体の場合にはやけどをする恐れがあります。（製品の交換が必要になります。）



注意

- 製品の機能の維持、および万一の外部漏洩に備え、定期的に点検を実施してください。
- 長期間運転を休止する場合は、製品および配管内の流体を排出してください。
※製品や配管内の錆の発生などによる故障、あるいは凍結による破損の恐れがあります。

[故障の原因と処置]

故障の状態、原因を確認し処置を行います。

故障状態	原因	処置
耐圧試験時または運転時に継手が異常に伸びた。	①継手の両端部にアンカを設けていない。 ②アンカの強度不足	①継手の両端にはアンカを設置する。（6頁参照） ②アンカの強度は、運転時または耐圧試験時の荷重の大きいほうの荷重に十分耐えるよう堅固にする。 ※製品を新品と交換しなければならない場合もあります。
流体を流すと振動音が発生する。	流れ方向を銘板矢印と逆に取付け。	流れ方向を矢印通りに設置し直す。
ベローズが破損し流体が漏れた。	①配管の芯出し不良の為ベローズがナイトウに接触。 ②ベローズの寿命。	配管の芯出しを行うと共に配管のガイドを確実に設置する。（8頁参照） ※製品は新品と交換する。

製品及び本取扱説明書に関するお問合せは下記へお願いします。

○サービスネットワーク

サービスネットワークについては、弊社ホームページ（二次元コード読み込みまたはURL入力（<https://www.venn.co.jp/>）の拠点情報より最寄りの営業所までお問合せ願います。

拠点情報 二次元コード

